

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

# 赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和4年4月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第983号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

APRIL 2022 NO.983

# 4



わたしも赤十字

赤十字ボランティア

みやもと かれん  
宮本佳蓮さん(京都府京都市 / 27歳)【P.4でご紹介】

## 特集

出産間近での“感染”。緊急の帝王切開、新生児の移送…そして高まる医療連携

# コロナ禍で生まれる命を守る

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

出産間近での“感染”。緊急の帝王切開、新生児の移送…そして高まる医療連携

# コロナ禍で生まれる命を守る

日赤が妊産婦保健事業を開始して今年で100年。コロナ禍においても、妊産婦と子ども、2つの命を守るために最善を尽くしています。コロナ禍の「出産」の現場で何が起きているのか。日赤愛知医療センター名古屋第二病院(以下、名二)産婦人科の職員の活動をご紹介します。

新型コロナウイルス感染症が爆発的に広がり始めた2020年春以降、感染して症状のある妊婦さんの多くが帝王切開による出産を行っています。そして、その方々には出産後も厳しい現実が…。赤ちゃんは母親と隔離されるだけでなく、新生児用隔離ベッドが足りない場合は他院に移送されることも。一時的な母子分離。母子共に健康で、幸せな未来のために、つらくとも乗り越えなくてはなりません。



▲新型コロナウイルスに感染した妊婦さんの帝王切開の様子  
●2メートル以上離れた場所で生まれた赤ちゃんとお母さんの初対面。濃厚接触になるため抱っこはできない  
●新生児は2回のPCR検査を受けて陰性が確認されるまで隔離室でケアを受ける  
●感染したお母さんから生まれた赤ちゃんのための隔離ベッドが足りず、他院に移送される新生児



第二産婦人科部長 兼 総合周産期母子医療センター長  
加藤紀子さん

## 2つの命のため「最良の選択」を続ける

「名二は、合併症があるなどのハイリスク出産の受け入れを行う、この地域の周産期母子医療センターです。これまでの緊急対応に新型コロナに感染した妊婦さんが加わり、多忙な日々が続いています。リスクのある方に安全に出産してもらうためには計画的な出産が望ましい。新型コロナに感染した妊婦さんとそのご家族は、妊婦さんに既に苦しい症状がある中で『とにかく安心安全に出産できれば』『赤ちゃんが無事に産まれれば』という切実な思いがあり、みなさん帝王切開を受容されます。また、経陰分娩ではいきんだり、激しい呼吸や大きな声を出したり、長時間寄り添うスタッフの感染リスクが高まるので、帝王切開であれば、そのリスクも軽減できます。

まさか自分が感染するとは思ってもせず、コロナの発症から帝王切開まで短期間に進むため、大変な不安と混乱の中に置かれる妊婦さん。それでも皆さんが、おなかにいる赤ちゃんにとって最良の方法で出産する、そういう覚悟を自然とお持ちになっています。お母さんも医療従事者も常に“最良の選択”をし続ける。出産後、他院に移った方が検診のため当院に来て『感染して不安な時期に、私たちを受け入れてくださってありがとうございます』と言ってくださいます。当院で接した時間は短くても、赤ちゃんの命を守るためにお母さんとスタッフが力を合わせ、ベストを尽くした結果だ、と、うれしく思います」

## 感染した不安を、共に乗り越える

「運ばれてきた陽性の妊婦さんから妊娠の経過などを聞き取り、帝王切開の手術中から手術後まで一貫してサポートするのが助産師の役目。帝王切開でおなかから赤ちゃんが取り上げられたとき、私たち助産師はもちろんです。オペの医師、看護師、麻酔科医、皆で一斉に『おめでとうございます！』『赤ちゃん、元気ですよ！』とお母さんに声を掛けます。お母さんは局所麻酔なので意識があり、耳もしっかりと聞こえています。しかし、顔のところまで清潔なカバーを掛けられているので、出てきた瞬間の赤ちゃんを見ることができません。助産師が医師から赤ちゃんを受け取り、すばやく分娩台から離れると、お母さんの顔のカバーが外され、2メートル以上離れた場所で助産師が抱き上げる赤ちゃんの顔を見ることができません。無事に生まれてきた我が子を見て感極まり、なかには泣き出すお母さんも…。感染してからおなかの赤ちゃんのことが心配で、不安を感じることも多かったのでしょうか。そういった不安に寄り添うのも助産師です。術後、コロナ専用病棟に移されたお母さんに対しては、防護服を身に付けてはいますが通常の産婦さんと変わらない対応を心掛けています。隔離解除後、お母さん自身が赤ちゃんのお世話をするのに必要なアドバイスをしますが、『出産後すぐに母乳をあげられなくても適切にケアをすれば母乳で育てられますよ』と伝えると安心された方もいました。感染前に思い描いていたように育てられる、お母さんの希望をかなえるお手伝いをしたいですね。



看護部長 助産師  
藤井奈津子さん

2年前の春、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃は、私たちも未知のウイルスに対する恐怖心がありました。助産師として十分なケアができないというジレンマや葛藤の中、妊産婦ケアのマニュアルを変えたり、それまで経験の少なかった感染防御をしながらの対応を検討したり、工夫を続けてきました。母子分離となってしまう産後のケアとしてZoomを使ったモニター越しの母子面会を自発的に取り入れたのも、その1つです。コロナ禍が始まってから、産科のスタッフも壁にぶつかりながら、多くの経験を積みました。安心して安全な出産ができるように、皆で協力して力を尽くす。より一層、真摯に、お母さんと子どものためのケアに向き合うようになったと感じています」

### 取材班の現場レポート

## 医療現場に吹いた、新しい風

離れ離れになった母親と赤ちゃんが再会できるのは、国が定めた感染者の隔離期間と同じ、発症日の翌日から10日経過し、かつ症状軽快後3日間(72時間)経過してから。赤ちゃんはPCR検査で2度の陰性が確認されたら、通常の新生児室に移ることが可能です。赤ちゃんが先に退院する場合は、入院中の母親に代わり家族がお世話をするか、他の病院や施設に一時預かりしていただくか、いずれの場合も専門の看護師が母親の希望を聞いて赤ちゃんに最適な方法を一緒に考えます。また、母親も、産後の経過が良ければ、感染患者を受け入れる他院に転院します。



産まれた赤ちゃんとは直接の面会ができない母親と、赤ちゃんの写真を見ながら「かわいいね、早く抱っこしたいね」と話す加藤医師(写真右)



命を預かる医療の現場は、チームとしての連携が重要。産科スタッフのミーティングで細やかに情報を共有し合う

出産直後の新生児の移送や、産後間もない母親の転院など、すべては地域の医療連携の中で行われます。

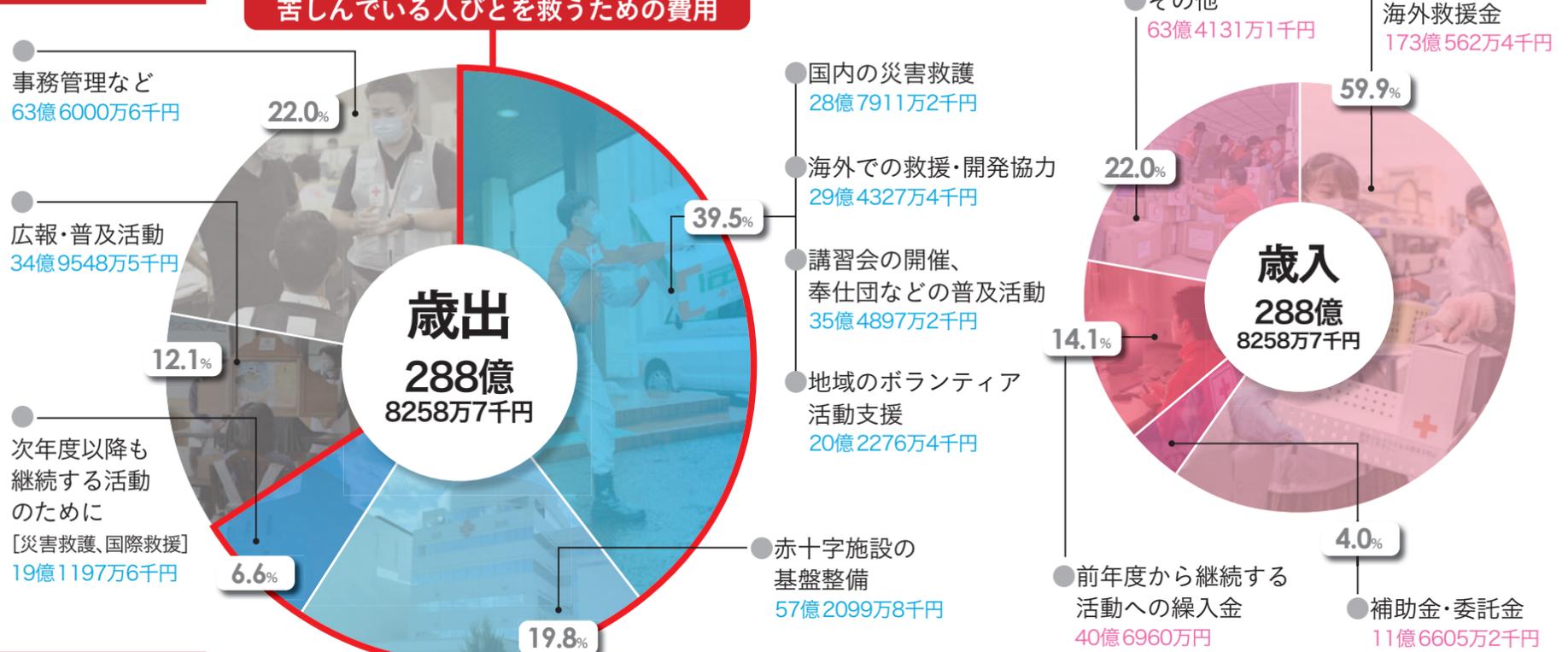
赤ちゃんとお母さん、2つの命を守らなくてはならない周産期の現場で、地域の医療連携にも新しい風が吹きました。愛知県では近隣の医療機関との連携がより密になり、病院間でお互いを頼り、信頼して託せています。「地域の医療者全体に連帯・支え合いの意識が生まれ、ONE チームでコロナ禍の周産期医療を支えています」と加藤医師も語ります。コロナ禍の2年。私たちは新型コロナウイルスの脅威にさらされながらも、それを乗り越え、希望を取り戻すすべを身に付けたようです。

# 令和4年度 予算概要

日本赤十字社は災害救護活動や国際救援活動をはじめとして、さまざまな事業を展開しています。それぞれの事業によって財源は異なり、全国の個人・法人の会費および寄付金などを主な財源とする「一般会計」と、各事業での収益を財源とする「特別会計」があります。なお、令和4年度は、ポストコロナにおける事業展開を見据えながら、引き続き新型コロナウイルス感染症への対応に取り組んでいきます。



## 一般会計



## 特別会計

### 医療施設

診療収益を主な財源として、病院運営のための費用などに充てられます。

収入 1兆1393億2243万3千円

支出 1兆1515億9515万5千円

差引額

**-122億7272万2千円**

上記予算には新型コロナウイルス感染症にかかる補助金を見込んでいないが、令和4年度に交付された場合は、収支が改善する可能性があること

### 血液事業

輸血用血液製剤供給収益を主な財源として、安全な血液製剤を安定的に供給するための費用などに充てられます。

収入 1636億1225万5千円

支出 1612億6077万2千円

差引額

**23億5148万3千円**

### 社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源として、各種社会福祉施設の運営費用などに充てられます。

歳入 198億5200万円

歳出 156億1511万1千円

差引額\*

**42億3688万9千円**

注) 1. 「一般会計」において本社・支部間で重複計上されている20億3241万円は、歳出・歳入から差し引いて表示しています  
 2. 医療施設特別会計から一般会計への貸付金償還金90億円については、「一般会計」の歳出・歳入から差し引いて表示しています  
 3. 「特別会計」における収入とは「収益的収入」、支出とは「収益的支出」、差引額とは「収益的収入支出差引額」(\*の差引額を除く)のことであり、予算書の詳細は、日本赤十字社ホームページをご確認ください

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介いたします。



赤十字ボランティア

**宮本佳蓮** (みやもと・かれん)さん

京都府京都市 / 27歳 / 児童福祉施設職員

小学4年生から赤十字に夢中！  
ボランティアの私にしかできないことを続けます

私は生粋の赤十字ファンです。赤十字での活動歴は小4から18年になります。毎年JRC(青少年赤十字)のリーダーシップ・トレーニング・センターに参加し、学校以外に友人もたくさんできました。今でも鮮明に覚えているのは中学1年生の時、国際交流で来日した海外の青少年たちに京都の観光案内をしたこと。赤十字を通して世界につながるんだ、赤十字ってすごい！と感動したのです。それ以来、私の使命は“赤十字ファンを増やす”こと。JRC活動がしたい一心で、高校はJRC加盟校である京都府立鳥羽高等学校(表紙の撮影場所)に進学。大学も青少年赤十字の影響もあって教育学部に入りました。日赤が主催した東日本大震災の被災地での交流は今も深く心に刻まれています。

現在は青年赤十字奉仕団として活動する傍ら、奉仕団基礎研修や、リーダーシップ研修などの指導講師をしています。コロナ禍で、新型コロナウイルス感染症に関連して偏見や差別が起きていると知り、心が苦しくなりました。そこで、京都

府支部の職員とチームを組んで偏見や差別をなくすための親子向け啓発絵本を作成。この絵本作りの活動は、IFRC\*が主催する赤十字のユースボランティアの活動を支援するための助成金プログラム「Limitless」に応募したところ、第一次選考を通過しました。プライベートのほとんどを赤十字に費やしているので周りからもよく心配されます。でも赤十字ボランティアとしての活動が楽しくて仕方ないんです。ボランティアだからできること、伝えられることがあると思います。私はこれからもこの活動を頑張っていきたいです。

\*国際赤十字・赤新月社連盟

## 赤十字ボランティアについて

赤十字の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも“困っている人、苦しんでいる人の役に立ちたい”という思いを行動に移してみませんか？

各地の赤十字ボランティアについて詳しくは⇒



TOPICS

# 赤十字WEBミュージアム 特別企画「青少年赤十字創設100周年」4月1日 公開 ～子どもたちに未来を託して～青少年育成の100年



福島支部、鬼生田少年赤十字団の清掃奉仕（大正末期～昭和初期ごろ）

日本に「青少年赤十字」が生まれて、今年で100年。現在 JRCには、全国で1万4502校(幼稚園、保育所、小中高、特別支援学校を含む)が加盟、メンバーは345万6479人に上ります。清掃活動や老人ホームの訪問、募金活動、リーダーシップ・トレーニング・センター(リーダーシップの養成を目的とした集合研修)といったさまざまな実践を通じて、未来を担う豊かな心を持つ青少年の育成を続けています。

本特別企画では、教師と子どもたちによる青少年赤十字の取り組みについて、貴重な所蔵品と共に紹介。青少年の国際理解・親善促進に役立った「少年赤十字通信」の手引き書や、青少年に衛生的な生活づくりを促す啓発ポスター、戦争などの状況下でも弱さを保護し、加害行為にブレーキをかけることを国家レベルで約束し合う「ジュネーブ条約」の啓発など、100年の歳月を掛けて赤十字が取り組んだ青少年教育の実践が、凝縮されています。ぜひご覧ください。



国内外で手紙や写真を交わすための「少年赤十字通信の手引」



赤十字社連盟発行の「世界の衛生(The World's Health)」(1925年2月号)に、日赤が作った少年赤十字衛生ポスターが取り上げられた



戦争体験者が孫世代に、ジュネーブ条約(赤十字条約)をやさしく教える紙芝居(1968年)

**赤十字WEBミュージアム 特別企画**  
**青少年赤十字創設100周年**  
**～子どもたちに未来を託して～**

本企画は赤十字情報プラザでも展示されます。予約方法、スケジュールは日赤ホームページでご確認ください。(予約必須)

<https://www.jrc.or.jp/webmuseum/column>

# 献血 まるわかり 辞典

「なるほど!」と思わずひざを打つ  
“献血にまつわる豆知識”を紹介する  
新コーナーが誕生! 第1回のテーマは「**稀血/まれな血液**」です。

vol. 1



## まれけつ/まれな - けつえき 【稀血/まれな血液】

「鬼滅の刃」で注目が集まった  
【稀血】は本当に存在する!?

稀血—あまり聞き慣れない言葉ですが、中高年以降の世代が、この言葉を聞いて真っ先に思い浮かぶのは「Rh陰性(マイナス)」ではないでしょうか。しかし、若者たちの世代では稀血といえば、近年大ヒットした「鬼滅の刃」です。鬼との戦いを描いた作品ですが、人間を食らって生きる鬼たちの大好物が“稀血の人間”なのです。

漫画の世界とはだいぶ違いますが、現実にもまれな血液をもつ人がいます。私たちにもなじみのある血液型といえば、「ABO血液型」と「Rh血液型」。輸血の際にはこれらが一致した血液を使用することが基本です。

ちなみに、先述した「Rh陰性」は日本では0.5%程度と少ないものの、欧米では15%を超える国もあります。まれな血液型とは、おおむね出現頻





全国各地 あなたの生活のすぐそばで 日本赤十字社の活動は行われています。

### 千葉県 銚子地方気象台と協力し 防災ボランティア研修会開催

1月30日、千葉県赤十字防災ボランティア研修会を赤十字会館(参集+Web会議)にて開催。銚子地方気象台の方を講師に迎え、避難のタイミングや昨年見直しが行われた避難情報、キックル(警報の危険度分布)の活用法などについて講義を行いました。参加していたボランティアからは「今回の講義内容を自分の住んでいる地域で共有したい」との声が上がりました。



災害の種類や台風経路図の見方についてなど専門的な講義も

### 長野県 125年の歴史に幕 看護専門学校で最後の卒業式

3月1日、今年度で閉校となる長野赤十字看護専門学校で最後の卒業式が行われました。卒業生らは入学以来、授業や実習がオンラインになるなど制限の多い学生生活となりましたが、「制限された環境で学んだからこそ、患者に触れ、患者の側で思いを受け止めることの大切さを実感できた」と前向きに捉え、その多くが国内各地の赤十字病院へと巣立っています。



同校は明治30年(1897年)に発足以来、3400人超の看護師を輩出

### 香川県 親子で学ぶ、防災・減災 若いファミリーが積極参加

日赤香川県支部は3月5日、「さぬきこどもの国」にて、「防災とボランティアのつどい〜親子で学ぶ防災、広げよう減災〜」を県内の防災団体と共同で開催しました。阪神・淡路大震災の翌年に始まった同イベントは毎年盛況。今年も500人を超える親子が参加し、ボードゲームや工作、積木、AED体験などを通じて防災意識を高める体験型企画に真剣に取り組まれました。



災害シミュレーション「避難所に何を持っていく?」に親子で挑戦

### 宮崎県 災害時の高齢者支援について ケアマネ275人にWeb講習

日赤宮崎県支部では、2月21日、県内のケアマネジャー275人を対象に「災害時における高齢者支援」をテーマにしたウェビナーを実施。災害時における高齢者支援に加え、支援者自身の災害への備えにも触れた内容は受講者からも好評で、早速、追加講演の依頼も。赤十字が地域包括ケアシステム構築支援をしていることも伝わり、地域との連携へとつながりました。



今回は宮崎県介護支援専門協会からの依頼でウェビナーが実現

### 石川県 ハンドボールチームと連携し ハンドウォッシュを啓発

日赤石川県支部は昨年12月に北國銀行とパートナーシップ協定を締結。北國銀行ハンドボール部 Honey Beeと「ハンドボール+ハンドウォッシュ」をテーマに、手洗いなどの感染症対策を推進しています。今年2月には選手、スタッフを対象に救急法(心肺蘇生法とAEDの使い方)や手洗い講習を実施したほか、「日本赤十字社応援試合」を開催し、募金活動や手洗い講習を行いました。



地域の人々に向けてハンドボール教室+手洗い講習も実施予定

### 広島県 2つの病院が統合し 地域医療がより充実

三原赤十字病院は、4月1日に三菱三原病院と統合し、新たな体制での運営がスタートします。限られた医療資源を集約し、効率的な医療提供体制の構築を目指します。三菱三原病院から医療スタッフが移籍することで、増加する高齢者の救急患者への対応が強化されます。また、複雑な手術等も行えることになり、地域医療がより一層充実することが期待されています。



三菱三原病院の病院事業は三原赤十字病院が全面的に引き継ぐ

### 徳島県 来年こそは、お餅つきを! 乳児院に心温まるプレゼント

3月3日、徳島赤十字乳児院に市民団体の「松島会」より運動用具とお餅が寄付されました。松島会は平成21年から毎年欠かさず赤十字乳児院での餅つき行事を開催。子どもたちも楽しみにしていましたが、コロナ禍のため2年連続で餅つきは中止に。来年こそはと願いが込められたプレゼントに子どもたちは大喜び。元気に「ひなまつり」を歌って、感謝の気持ちを伝えました。



子どもたちのお礼の歌に「来年こそはお餅つきしようね」と約束

### 埼玉県 鹿児島県 コロナ禍での献血を盛り上げよう! 各地でオリジナルの取り組みが展開

埼玉県赤十字血液センターは2月27日、浦和駅東口で献血を行い、協力者に温室栽培したトマトを進呈しました。このトマトは、埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学校の生徒たちが栽培。コロナ禍で例年行われてきた販売会が中止となり、トマトを献血協力者へのお礼に使ってもらおうと同センターに協力を提案。先生方は「献血してもらおうことで、特別支援学校への応援にもなる」と献血を呼びかけました。



「生徒の頑張りが少しでも社会の役に立てれば」と温室トマト栽培を行っている

鹿児島県赤十字血液センターではボランティア組織「けんけつ応援隊」が奮闘中。コロナ禍でけんけつ応援隊の活動も制限される中、電話による予約依頼や献血ルーム案内CMの街頭ビジョンへの出演など、多角的な活動を展開しています。



「けんけつ応援隊」が献血ルーム・天文館の案内ビジョンに出演

「令和4年3月福島県沖地震災害義援金」受け付け中 ~お寄せいただいた義援金は、全額を被災地にお届けします~

詳しくは日赤のホームページから → <https://www.jrc.or.jp/contribution/>

## 赤十字はじめて物語

日本赤十字社の9つの事業 その出発点にはそれぞれの「はじまり」のストーリーがありました。

### vol. 1 青少年赤十字

#### 青少年育成が平和な未来への架け橋に

日赤は苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。災害救護、医療、血液(献血)、福祉、看護師養成など、なぜこの事業に取り組みはじめたか、それぞれの物語をシリーズで紹介する本企画。第1回は今年創設100周年を迎える「青少年赤十字」です。国際赤十字は第1次世界大戦の悲惨な経験から、互いを思いやる心を育むことを目的として、青少年教育に注力することを赤十字社連盟総会で決議しました(1920年)。それを受け、日本でも1922年に、滋賀県の守山尋常高等小学校で「少年赤十字団」が結成されました。青少年赤十字の教育の柱は「命と健康を大切に」「社会への奉仕」、そして「国際理解・親善」です。国を超えて互いを理解し、尊敬し合うという経験をした子どもたちが、大人になったときに戦争の抑止につながることを願い、青少年同士の積極的な国際交流を行っています。

1922年、日本で最初の青少年赤十字 守山尋常高等小学校 少年赤十字団が誕生



守山尋常高等小学校の少年赤十字団旗授与式。国内外の学校間で手紙やアルバムなどを交わす「通信交換」が行われました



特設サイトでより詳しく読めます →

## 「赤十字を応援!」プレゼント パートナー企業紹介 vol.24 米屋株式会社

### 「未来の喜び」のために老舗の和菓子企業が続ける、SDGs活動



写真左:「伝統的な食文化を伝える「和菓子教室」の様子(現在はコロナ禍のため開催を休止中) 写真右:児童の安全を守る通学用の手提げ袋

1899年(明治32年)に創業し、千葉県の成田山新勝寺のお膝元に本店を構える和菓子の「なごみの米屋(よねや)」。代表銘菓の栗羊羹をはじめ、和菓子を作り続けて人々との輪をつないできた同社は「人が喜ぶ姿こそ、自らの喜びである」というメッセージと共に、未来に喜びをつなぐためのSDGs活動に取り組んでいます。工場では鉛の製造で出る排水を微生物によって分解、浄化して自然界に戻したり、廃棄物を削減するなど環境にやさしくCO2削減に資する省エネ操業を展開。また、和菓子の文化を伝承するため和菓子教室の開催や、成田市内の新小学1年生に交通安全祈願の黄色い手提げ袋を寄贈するなど、地域での社会貢献を積極的に行っています。赤十字への支援は、3代にわたり約40年続いています。現在は千葉県赤十字有功会の会員として、活動の支援や寄付を行っています。

※Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

### 極上ひとくち羊羹 (10本詰) 3名さまに



小豆の風味を大切に、伝統の製法で揚げ上げた美しい色つやの羊羹

商品写真はイメージです

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 4月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥4月号に関するご意見・ご感想 ※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 4月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。4月28日(木)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代させていただきます



こちらから応募できます

# WORLD NEWS

## ウクライナ危機



© Maksym Trebukhov/Ukrainian Red Cross

赤十字ボランティアが地下鉄駅構内で避難者に食料などの物資を配布。支援の詳細は2次元バーコードから

## 戦闘激化で人道の危機にあるウクライナ 世界の赤十字が一般市民を保護支援

ウクライナを巡る情勢が毎日のように報道されています。中には子どもやお年寄りが戦闘により亡くなるなどの心痛むニュースも多く、世界が固唾をのんで見守っています。この人道危機に際し、世界の赤十字が取り組む最新の活動状況をお知らせします。

### 爆撃の中で活動を続けるボランティアたち

2月24日に勃発したウクライナ危機に対して、ウクライナ赤十字社をはじめとする各国赤十字・赤新月社が連携した人道支援を展開しています。

戦禍のウクライナでは、戦闘が始まってから1カ月足らずで、自宅を離れて国内・国外に避難を強いられた人は1000万人に達しました。

一方でウクライナ赤十字社に新たに登録するボランティアは増え続けており、約6000人(3月9日現在)が各地で救援物資の配布や応急手当の訓練、障害のある方や子どもなど支援が必要な方々の避難のサポートをしています。

爆撃が続くウクライナでの活動は命がけです

©IFRC  
避難した人に24時間体制で温かい食事を提供するウクライナ赤十字社ボランティア

が、ボランティアのユリアさんは「私は人々を助けたい。だからここにいるのです」と語っています。ウクライナ赤十字社のマクシム事務総長は、2月28日にオンラインで行われた国際赤十字調整会議で「最善な人道支援を尽くすために欠かさないこと」として、市民だけでなくスタッフ・ボランティアの十分な安全確保を誓いました。

### 各国赤十字社が連帯した公平・中立な支援

周辺国であるクロアチア、ハンガリー、モルドバ、ポーランド、ルーマニア、スロヴァキアの赤十字社では避難してきた人々の支援活動が行われています。国境の両側では食料や水、寝具などのほかに大切な人と連絡が取り合えるよう携帯電話用SIMカードも配布しています。また離れ離れになった家族の再会支援なども、各国赤十字社のボランティアによって支えられています。

支援の対象はウクライナ人だけではありません。ナイジェリア人のフランシスさんとカメルーン人のフランクさんは、ウクライナ留学中にこのたびの事態を受けて家族で避難。「ハンガリー赤十字社の手厚いサポートにより赤ちゃんの食事が確保できました」と感謝を語りました。

各国赤十字社・赤新月社の活動は周辺国にとどまらず、イタリア赤十字社ではトラック4

台分の救援物資をルーマニア国境に近いウクライナの町に運搬。またトルコ赤新月社はキッチンカーで炊き出しを行い、ウクライナから国境を越えて避難する人々に温かい食事の提供を行っています。

ロシア赤十字社では187トンの救援物資を準備。ウクライナとの国境の町でウクライナからの避難民に物資の配布や医療支援、こころのケアなどを実施しています。

日本赤十字社では3月4日に2000万円の緊急支援を行うことを決定。さらに3月末までにICRCとIFRC\*に対し各3億5000万円(計7億円)を追加拠出します。各国赤十字社から届いた物資や資金は国際赤十字の調整のもと、必要とする人々に確実に届けられます。ウクライナでの人道支援と、ウクライナからの避難民を受け入れる周辺国などで活用される「ウクライナ人道危機救援金」にご協力をお願いいたします。



©ポーランド赤十字社

ウクライナの避難民を受け入れるポーランドの避難所

### 「ウクライナ人道危機救援金」受付中

皆さまの温かいご支援をよろしくお願いたします。

募集期間:~2022年5月31日(火)

<https://www.jrc.or.jp/contribute/help/ukraine/>



## ウクライナ危機と国際人道法 ~「戦争」にも「ルール」がある~

ウクライナ人道危機の深刻化に伴い、日本赤十字社には多くの方から「私たちにできることはありますか」との温かい声や救援金が寄せられています。

ウクライナ内外で苦しむ人々のため、日赤を含めた世界中の赤十字が協力し、全力で人道支援にあたっていると同時に、紛争地をはじめ国際社会に向けて強く訴えているのが下記にある「国際人道法」の順守です。

### 紛争当事者による戦闘の方法・手段は無制限ではない

攻撃は軍事目標に限定し、文民(=一般市民)とその生活インフラ(病院、学校、文化財、発電所など)に過度の損害を与える無差別な攻撃(兵器の使用)は禁じられています。戦闘に従事する者と従事しない文民を区別することが人道法の鉄則です。

### 人道支援活動は尊重され、保護されなければならない

人々のいのちと尊厳を守る中立・公平な人道支援活動が妨害されることがあってはならず、紛争当事者はこれを尊重し、保護しなければなりません。

こうした国際人道法のルールは、「紛争地で救うことができたはずの多くのいのちがあった」という思いが今日の国際社会で共有されている証拠と考えられます。だからこそ今、一人でも多くのいのちを救うために、「戦争にもルールがある」という国際人道法の認識を改めて社会に広めていくことが重要です。

国際人道法をより多くの人が知り、守り、支持することが、紛争当事者にその順守を促し、私たち民間人を守ることに繋がります。



国際人道法について詳しくは、こちら ▲  
<https://vimeo.com/677923825>

\* ICRC: 紛争地での支援活動を行う赤十字国際委員会、IFRC: 避難民などの支援を行う国際赤十字・赤新月社連盟